

# 在宅演習

## 解答および解説

公益財団法人日本ハンドボール協会  
競技・審判本部

問題	正しい判定	判断基準	該当する競技規則
1	①フリースロー ②即座に2分間退場	背後から相手を捕まえ続け、かつ腕が相手の首に入っている状態である。このような違反には、レフェリーは即座に2分間退場を判定すべきである。	8 : 4
2	①フリースロー ②即座に2分間退場	DFは空中にいる相手を（横から）押している。 このときOFは、明らかな得点チャンスを得た状態でのシュートではないため、違反のあった位置からのフリースローで再開となる。	8 : 4 14 : 1 a 解釈6 a
3	①フリースロー ②即座に2分間退場	DFは相手を背後から掴み続け、最終的に引き倒している。 このときOFは、明らかな得点チャンスを得た状態ではないため、違反のあった位置からフリースローでの再開となる。	8 : 4 14 : 1 a 解釈6 a
4	①（OF側がシュート態勢ではないことを確認） ゴールレフェリーが競技を中断 ②段階的罰則を適用 ③違反のあったところに最も近いフリースローライン際から、フリースローで再開	DFは、ピボットプレイヤーのユニホームを捕まえ続けることで、相手が自由に動くことを防いでいる。 エリア際はゴールレフェリーの領域であり、かつゴールレフェリーからも観察できる違反であることから、ゴールレフェリーが罰則を出すことが望ましい（ただしコートレフェリーも、その過程に至る前にゴールレフェリーと連携し、正面からジェスチャー等で注意を与える必要がある）。 罰則や注意を与えるための中断の際は、OF側が不利になるタイミングで競技を中断しないよう、レフェリーは注意しなければならない。	8 : 3
5	①中断することなく、そのままプレーを継続させる	DFはボールを保持する相手に対し、正面で、足を使って（曲げた腕で）相手の動きに合わせてついていっている。 罰則は不要であり、そのままプレーを継続させるべきである。	8 : 1



問題	正しい判定	判断基準	該当する競技規則
6	① (ゴールレフェリーが) オフェンシブファールを判定 ②違反の起きた位置から、相手チームのフリースローで再開	ピボットプレーヤーは、左手でボールをキャッチしようとしているが、右腕は、有利な位置を取ろうと防御側を押している。 ゴールレフェリーは、オフェンシブファールの判定をしなければならない。 ゴールレフェリーは、エリア際の攻防において、このような「可能性」を頭に入れ、ピボットプレーヤーが DF と接触している側の腕が観察できる位置を取る工夫をすることが必要となる。	8 : 2
7	①フリースロー ②即座に 2 分間退場	DF はボールに対してではなく、相手の喉に対して攻撃している。 このような違反をした場合、前もって警告となっていなくても、即座に 2 分間退場を判定すべきである。 (レフェリーは、開始直後から、その準備をすべきである)	8 : 4 c
8	①アドバンテージ ②得点 ③スローオフ	攻防中、DF はピボットプレーヤーのユニホームを掴んではいるが、レフェリーが優先すべきは、プレーを中断することなく OF 側にアドバンテージを与え、そのままプレーを継続させることである。 (アドバンテージの後) ピボットプレーヤーにボールが渡ると、DF はユニホームをはなしており、ピボットプレーヤーは、ボールと身体を「完全にコントロールした状態」でシュートを打っている。 そのためレフェリーは得点を認め、競技を中断することなくスローオフを行わせるべきである。 ※ ただしこれに関し、国内のアンダーカテゴリーでは、連盟の運用に任せることとする。	1 4 : 2
9	① 7 mスロー ②即座に 2 分間退場 ※少なくとも段階的罰則	ゴールキーパー不在の無人のゴールに向かって打たれたシュートを、DF はゴールエリアの中に入り、足を使って積極的にシュートを妨害している。この状況は「明らかな得点チャンス」であり、レフェリーは 7 mスローを判定しなければならない。 この直接ゴールを狙っているシュートに対し、足を使って意図的に防御するという行為は通常の警告ではなく、即座に 2 分間退場を判定しなければならない。	8 : 8 1 4 : 1 a 解釈 6 c



問題	正しい判定	判断基準	該当する競技規則
1 0	①直ちに競技を中断 ②ペアで寄って協議 ③報告書を伴わない失格 ④7 mスローを実施	状況：競技終了まで20秒 競技終了前30秒間において、競技の中断中に、DFはそのまま捕まえ続けることでフリースローの実施を妨害している。 レフェリーは、違反行為をしたプレーヤーを報告書を伴わない失格とし、相手チームに7 mスローを与える。	8 : 1 0 c 1 4 : 1 d
1 1	①アドバンテージ ②状況を見て競技を中断 ③即座に2分間退場 ④中断した場所からフリースローで再開	速攻時、ボールを持ったプレーヤーは横方向から走ってきた相手にぶつかられながらも、味方へとボールをつないでいる。 ここで優先すべきは、OF側にアドバンテージを与えることである（慌てず&違反したプレーヤーの番号を覚えておく）。 OFの流れが止まったところでレフェリーは競技を中断し（レフェリーはいいタイミングで中断している）、違反したプレーヤーに対し、即座に2分間退場を判定する。	8 : 4 1 3 : 2
1 2	①フリースロー ②即座に2分間退場	DFは、ボールを持った選手に対し、後ろから捕まえ続け、最終的に引き倒している。 レフェリーは開始直後から、即座に2分間退場以上の判定をする準備をしておく。 このときOFは、明らかな得点チャンスを得た状態ではないため、違反のあった位置からフリースローでの再開となる。	8 : 4 b 1 4 : 1 a 解釈6 a
1 3	①フリースロー ②即座に2分間退場	OFは、明らかな得点チャンスを得た状態でのシュートではないため、フリースローを判定。 この直接ゴールを狙っているシュートに対し、足を使って意図的に防御するという行為は通常の警告ではなく、即座に2分間退場を判定しなければならない。	8 : 8



問題	正しい判定	判断基準	該当する競技規則
14	① 7mスロー ② 即座に2分間退場	<p>明らかな得点チャンスを得た（さらに空中にいる！）プレーヤーに対して、DFは後方から捕まえ、引き倒している。</p> <p>この行為は、重大な違反につながる可能性もあることから、判定する際には、レフェリーは「強めの笛の音」を使うことで、その違反の重大性を伝える必要がある。</p> <p>レフェリーは開始直後から、即座に2分間退場以上の判定をする準備をしなければならない。</p>	8 : 4 14 : 1 a 解釈 6 a
15	① アドバンテージ ② 得点 ③ スローオフ	<p>1対1の状況で、DFは相手を掴んではいるが、すぐに接触を止めており、OFは、ボールと身体を「完全にコントロールした状態」でシュートを打っている。</p> <p>ここで優先すべきは、OF側にアドバンテージを与えることであり（DFに掴まれた際に、バランスを崩しかけてはいるが）、慌てて中断してはならない。</p> <p>レフェリーは得点を認め、（OFもボディーバランスを保った状態でシュートを打っていることから）競技を中断することなくスローオフを行わせるべきである。</p> <p>※ ただしこれに関し、国内のアンダーカテゴリーでは、イエローカードの使用も可能とする。</p>	14 : 2
16	① 7mスロー	<p>DFの左足が完全にゴールエリアに侵入した状態で、明らかな得点チャンスを妨害している。</p> <p>ただしDFはゴールエリアに侵入してはいるが、他の違反をすることなくただ立っただけであり、罰則は不要である。</p>	6 : 2 c 14 : 1 a 解釈 6 a
17	① フリースロー ② 即座に2分間退場	<p>ボールをキャッチしたピボットプレーヤーは、明らかな得点チャンスを得た状態ではないため、フリースローを判定する。</p> <p>ただしDFは、相手を背後から捕まえ続け、最終的に引き倒している。</p> <p>レフェリーは、即座に2分間退場を判定する必要がある。</p>	8 : 4 b



問題	正しい判定	判断基準	該当する競技規則
18	① 7 mスロー ② 即座に2分間退場	先に位置を取ったのは OF であり、DF は速攻を仕掛けている相手に対し、横方向から走ってきて体をぶつけ、明らかな得点チャンスを妨害している。 レフェリーは、接触が見える位置から観察する必要があり、この接触を前あるいは（あえて）後ろに位置を取るべきである。 その工夫があれば、正しい判定ができたはずである。	8 : 4 14 : 1 a 解釈 6 b
19	① 直ちに中断 ② 負傷者の救護 （入場許可） ③ ペアで寄って協議 ④ 報告書を伴わない失格 ⑤ 7 mスローで再開	この状況において、ゴールキーパーには、相手に対して危害を及ぼす行為を「回避する義務」がある。 レフェリーはこのような状況において、落ち着いて対処すべきである。 まずは直ちに競技を中断し、負傷したプレーヤーへの救護を優先させなければならない（参加資格を持つ2名までに入場許可を与える）。 救護に当たっている間にペアで寄って協議し、相手と衝突したゴールキーパーを失格とすべきである。 また OF は、違反がなければボールをキャッチできており、この状況は明らかな得点チャンスであることから、7 mスローで再開となる。	8 : 5 4 : 1 1 14 : 1 a 解釈 6 b
20	① 直ちに中断 ② （必要があれば） 治療行為のため、入場 許可を与える ③ ペアで寄って協議 ④ 報告書を伴わない失格 ⑤ GK スローで再開	この状況で、シュートを打つプレーヤーには、ゴールキーパーに対して危害を及ぼす行為を「回避する義務」がある。つまり、ゴールキーパーの頭部周辺は、ゴールキーパーのわずかな移動でもボールが当たる可能性があるため、危険な空間となる。 映像でゴールキーパーは、ボールの方向（前方）へと動いているわけでもなく、これらの状況を観察すべきは、コートレフェリーである。 ただしレフェリーは、このような状況において、落ち着いて対処すべきである。 まずは直ちに競技を中断し、必要に応じて、（コート上での治療行為のため）参加資格を持つ2名までに入場許可を与える。 その間にペアで寄って協議し、シュートを打ったプレーヤーを失格とすべきである。	8 : 9 d および注



問題	正しい判定	判断基準	該当する競技規則
2 1	① 7 mスロー ② 即座に 2 分間退場	DF は完全にゴールエリアに侵入した状態で、ピボットプレイヤーのシュートを妨害している。 さらに DF は、ピボットプレイヤーを背後から引き倒しており、レフェリーは即座に 2 分間退場を判定すべきである。	8 : 4 b 6 : 2 c 1 4 : 1 a 解釈 6 a
2 2	① アドバンテージ ② 得点 ③ スローオフ	DF は相手の動きに合わせてついていくことができていない。 ただし、この軽微な違反は、OF のシュートに影響を及ぼしておらず、OF はボディーバランスを保った状態でシュートを打っている。 レフェリーは得点を認め、競技を中断することなくスローオフを行わせるべきである。 ※ ただしこれに関し、国内のアンダーカテゴリーでは、イエローカードの使用も可能とする。	1 4 : 2
2 3	① 得点 ② 直ちに中断 ③ 負傷者の救護 (入場許可) ④ ペアで寄って協議 ⑤ 報告書を伴わない失格 ⑥ スローオフ	この状況でレフェリーは、落ち着いて対処すべきである。 まずは、ボールの行方（シュートの結果）を確認、その後、直ちに競技を中断し、負傷したプレイヤーへの救護を促す（参加資格を持つ 2 名までに入場許可を与える。場合によっては TD と素早く連携し、担架の手配が必要となるときもあるだろう）。 救護に当たっている間にペアで寄って協議し、（先に位置を取ったのは OF であり）速攻でシュートを試みている相手に衝突し、相手に対して危害を及ぼす行為をしたプレイヤーを失格とすべきである。 ペアでの協議は、他のプレイヤーからある程度離れた状態で、かつコート内が観察できる位置で行うことも大切である。	8 : 5



問題	正しい判定	判断基準	該当する競技規則
24	①アドバンテージ ②得点 ③スローオフ	DFは、単独速攻で前を走る相手の背中を背後から軽く触れている。しかしOFのシュートに影響を及ぼしておらず、OFはボディーバランスを保った状態でシュートを打っている。 レフェリーは得点を認め、競技を中断することなくスローオフを行わせるべきである。 ただしこの行為は、重大な違反に発展する可能性があることから、（映像でも、レフェリーも近づいているのが分かる）この行為をしたプレーヤーに対し、口頭で注意しておくことは必要である。 ※ ただしこれに関し、国内のアンダーカテゴリーでは、イエローカードの使用も可能とする。	14:2
25	①直ちに中断 ②負傷者の救護 （入場許可） ③ペアで寄って協議 ④報告書を伴わない失格 あるいは 報告書を伴う失格 ⑤フリースローで再開	この状況でレフェリーは、必ず、落ち着いて対処すべきである。 まずは直ちに競技を中断し、負傷したプレーヤーへの救護を優先させなければならない（参加資格を持つ2名までに入場許可を与える。場合によってはTDと素早く連携し、担架の手配が必要となるときもあるだろう）。 救護に当たっている間にペアで寄って協議する。 DFは空中にいる相手の頭部に対し、危害を及ぼす行為（激しく接触）を、OFにとって自分の体を守ることができないタイミングで行っている。これは、極めて危険でさらにこれ以上の重大な結果につながる可能性もある。 この行為は、8:6に近い危険な違反行為であり、レフェリーは <u>少なくとも8:5（報告書を伴わない失格）</u> を判定すべきである。 このときOFは、明らかな得点チャンスを得た状態ではないため、違反のあった位置からフリースローでの再開となる。	8:5 8:6